

カトリック六甲教会 教会報

2017

7

No.547

「インターネット利用問題とキリスト教」

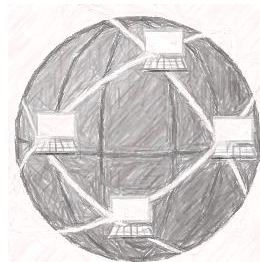
第2回 シスターとの出会い

群馬大学名誉教授 下田 博次

2012年11月、私たちは、「子どものネット利用問題を考える市民の合宿勉強会」を四国の室戸岬の研修所で行った。高知県はもとより各地からいわゆるケータイ問題に関心を寄せる教員、PTA、自治体職員など有志達が集まり、その研修会に東京から、メディアによる福音ミッションを遂行する女子パウロ会のYシスターが参加された。

この室戸でのシスターとの出会いが契機となり、2013年に日本の子供のネット利用問題理解のための保護者向け啓発書『液晶画面に吸いこまれる子どもたち』（女子パウロ会）が出版された。

この本の制作中に私はシスターから、教皇庁広報委員会著、川中康弘監訳の『コミュニケーションと進歩—第二バチカン公会議「広報機関に関する教令」司牧指針—』を受け取り、カトリックがメディアの進歩とその人類社会に与える影響について並々ならぬ関心を持つことを確認した。バチカンの「広報に関する教令」では、メディアの進化が人類社会の向上に資することを前提に、教会と信徒に向けて重要な指針の数々が記されていた。



「もう新聞、テレビの時代ではない」と考えている私としては、バチカンが第二公会議の後、インターネットというメディアの使い方、あり方について何らかの動きをしているはずだと思っていたが、第二バチカン公会議で決まった「世界広報の日」には、歴代の教皇様が、その時々メディアのあり方について教えを述べられていることが分かった。それらを読んで私は、カトリックがインターネットというメディアの力を深く理解しつつ、その利用実態、問題点にも目を向けて、正しい方向を世界に示そうとしていることを理解することができた。



ナルドの花たより

イエスは「裂かれ」ました。わたしたちのために裂かれたのです。これがご聖体です。そしてわたしたちに命じます。自分自身をささげるように。他者のために裂かれるように。

Jesus was broken; he is broken for us. This is the Eucharist. And he asks us to give ourselves, to break ourselves, as it were, for others. (6/18)

尊厳ある生活を送ることを妨げる、新たな形の貧困と疎外化から、わたしたちは目を背けることはできません。

We must not turn our backs on the new forms of poverty and marginalization that prevent people from living a life of dignity. (6/21)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート（邦訳）より



2016年度第2回地区役員会議事録

- ・ 日 時 : 2017年5月21日(日)
 - ・ 出席者 : アルフレド主任司祭、中西評議会議長、各地区役員
 - 1 東ブロック(神戸中央、住吉、六甲)合同堅信式お祝い会6月11日(日)について
 - 2 納涼の夕べ8月19日(土)について
 - 3. 受洗・転入された方の説明会報告
 - 4. 自由討議
- 次回地区役員会 7月16日(日) 議題予定



<行事報告>

宣教部主催 春の黙想会(5月13日)

アベイヤ神父様の講話は、実際の司牧・宣教体験に基づいており、非常に实际的で、すべてが納得できるものでした。中でも山上の垂訓を例に挙げて、周りの人の思いやりと連帯を感じる時が「幸い」なのだと言われたのは、福音宣教のひとつの方向を示すものではないかと感じました。その福音宣教が難しいのは「人との真剣なかかわり」すなわち「相手の自由を認めること」が求められるから、というご指摘には耳が痛くなりましたが、その一方で、神のいつくしみは個人だけでなく共同体にも働いているというお話には勇気づけられました。黙想会の最後のミサでは、自分という殻から出ていくことのできる恵みを願いました。(中西)

<行事報告>

第2回 『ユスト高山右近の足跡を訪ねて』バス旅行（5月27日）

5月27日は雲一つない素晴らしい青空の旅行日和でした。右近の足跡には高槻、明石、金沢、京都など馴染みのある土地が含まれ、バスに乗っているだけでゆかりの地に連れて行ってもらえるのであればと、気軽に参加することにしました。集合場所の教会に行くと圧倒的にご婦人優位、しかも、右近については歴史学者なみの知識を持っていますと言わんばかりの、つわもの揃い、勉強不足の私はエライところに来てしまったと反省していました。

バスの中で「約400年前にキリシタン大名であった右近が秀吉の禁教令に背き、地上の宝すべてを捨てる生涯を選んだ」「日本にカトリックが入ってきたころは多くの人が犠牲になった」と詳しい説明がありました。今は「自分がミサに与る時に誰かに監視されているのではないか」など、考えたこともない、いい時代に生活していると感じました。しかし、右近に起こった悲劇は、単に過去の物語ではない、現在でも戦国時代とは違う形の苦しみ、困難が多くあるように思われました。

最近、暴力団組長に関して、事実と反する「重度の心臓病があるため収監に堪えられない」とする診断書を作成した事件がありました。診断書を書いた医師は心臓病の専門家で、おそらく関係者から、出世・家族の安全について、甘い・ときには怖い話しがあつたのだろうと想像します。会社・商売・学校など、あらゆる分野で自分の信念を貫くことの困難さを感じることはいつもあります。右近が経験したことは歴史上の出来事ではなく、現在の私たちに直接突きつけられている問題でもあると感じました。
(森川)

<行事報告>

イエズス会教会司牧拡大委員会（5月27～28日）

さる5月27日、28日に六甲教会において第3回目となるイエズス会教会司牧拡大委員会が開催され、日本におけるイエズス会の教会（イグナチオ、祇園、山口、六甲の4教会）からそれぞれ司祭一名、信徒2名が集まりました。各教会の現状や10年後を考えお互いに協力していけること、イエズス会の教会としての方向などを話し合っています。

28日（日）には10時のミサは4人の司祭による共同司式となり、修了後イグナチオ喫茶にて英神父様による会議の説明ののちメンバー全員が六甲教会の信徒と交わる時間を持ち、今後の会議へとつながる意見の交換を行いました。

次回は秋に祇園教会で開催される予定です。

(橋岡)

<行事報告>

神戸地区東ブロック合同堅信式（6月11日）



堅信おめでとうございます。式に与りながら教会学校での初聖体の時の皆さんの可愛らしかった姿を思い出してもう早そんな月日が経ったのかと感慨深いものがありました。司教様へのお礼の言葉も通り一遍のことでなく自分の言葉でしっかり述べられていましたね。これからの教会を担っていく若者として心から頼もしく、また嬉しく思いました。これからも信仰の道をしっかり歩いてください。いつもリーダーたちは応援しています。本当におめでとうございます。
(教会学校リーダーたちより)

私は、先週堅信の秘蹟を前田万葉司教様に授けていただきました。司教様に油でおでこに十字を切っていただいた時には、「意外と呆気ないなあ」と思いました。でも自分の席に戻って座った時に、「私は堅信を受けたんだ」と実感しました。ミサの最後では、私が司教様へのお礼の言葉を言わせていただきました。しかし、いざお礼を言うとなると、とても緊張して、手足が震えてしまいました。案の定、お礼の言葉はかみかみでしたが、何とか最後まで言うことが出来て、良かったです。ミサの後のパーティでは、いろいろな方にお祝いしていただいて、大人の仲間入りした気分になりました。最後に、勉強会をしてくださったリーダー・パーティや堅信式の準備をくださった方々・そして家族と、お祝いしてくださったすべての方に感謝しています。これからも当分の間はお世話になると思うので、よろしくおねがいします。本当にありがとうございました。



(武田)

6月11日に堅信の秘蹟を授かりました。堅信の秘蹟には前田司教様が来て下さいました。

ぼくが一番印象に残ったことは、説教中に司教様がおっしゃっていた鯉のことです。とても面白かったと思いました。今回、堅信の秘蹟を授かるにあたって、たくさんの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

また、これからは、忙しい日もありますが、教会に行く頻度を多くしていきたいと思えます。
(小田)

6月11日、堅信の秘蹟を息子に授けていただきました。息子は生まれて15年、六甲教会のたくさんの方々可愛がっていただき、声を掛けていただき、お祈りいただきました。ただ、感謝致すばかりです。前田大司教様のお説教で、「堅信式に鯉を食べましょう」と歌を詠まれていましたので、この日は、家で息子の好きな鯉でお祝いしました。準備の勉強会、お祝いの会の準備のお手伝いと、息子たちの為に時間を割いていただき、本当に有り難うございました。(小田)



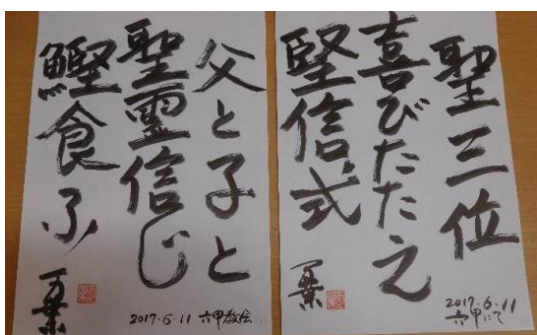
堅信式準備、堅信式を通して、ミサの本当の意味や、深い意味を知ることができたような気がします。また、私が堅信式準備のときに一番心に残った言葉は、マザー・テレサの「私は、神の手の中の小さな

鉛筆にすぎません。神が考え、神が描くのです」という言葉です。この言葉をいつも心に留め、神様の声に耳をかたむけて日々を過ごしたいです。

最後になりましたが、私たちのために準備をしてくださった神父様・シスター・リーダー・家族などたくさんの方々に感謝したいです。これからも、信者・神様の子として広い心を持ち、人に接していきたいです。
(佐藤)

僕は教会に行く機会が少なく、堅信についてもあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、堅信の勉強会を通じて僕は祈りの姿勢や教会に通うことの意味を学ぶことができました。神様の教えに従い、人のために奉仕し周囲の人を大切にする生き方をしていこうと思いました。

堅信式を執り行ってくださった前田万葉司教と教会の方々、そして堅信式に来てくださった方々本当にありがとうございました。たくさんの方々にお祝いしていただいて感謝しています。これからもよろしくお願いします。
(パウロ 五十嵐)



6月11日に前田大司教様に司式いただき、堅信の秘蹟を受けさせていただきました。この日の為に教会学校からのお友達と、たくさんのリーダーの導きをいただいて準備をしてきました。堅信を受けてもいいのかな、と迷う気持ちもありましたが、この日を迎えることができ、本当に良かったなと思います。

指導してくださったリーダー・司式を整えてくださった方々・その後のパーティを準備してくださった皆様、本当にありがとうございました。(千原)

赤ちゃんの時に幼児洗礼を受けた娘が堅信を受けました。当たり前のように洗礼を受け、教会に通ってききましたが、堅信を受けるためにいろいろな方にいろいろなことをたくさん教えていただき、やっと大人の仲間入りです。まだまだ未熟ですが、これからも教会の一員として皆に育ててほしいと思います。神父様をはじめ、忙しい中子ども達の為に時間を作って、たくさんのことを教えてくださった方々に感謝致します。有難うございました。
(佐藤)



<行事報告>

社会活動部学習会

正義と平和をめざして 考えさせられた実りある学習会 (6月18日)



6月18日(日)13時から信徒会館第1、第2会議室でシスター古屋敷による「1970～80年代カトリック日韓連帯の時代」というテーマで社会活動部主催の学習会が開かれ、30名近くの参加者が集まりました。韓国の近代史、現代史を研究されているシスターから日韓のカトリック連帯時代を振り返るとともに、これからすべての人の人権を守り民主政治を推進していく上で、カトリック信者がどう歩むべきかを考えさせられた一日でした。

以下は、参加者からの感想です。

=====

6月18日 六甲教会信徒会館会議室で今年度の社会活動部学習会が行われました。テーマは“1970-80年代 カトリック日韓連帯の時代”。講師は5年前まで六甲教会での入門講座や事務室でお世話になったSr 古屋敷一葉(援助修道会)です。2014年のアジアン・ユース・デイに参加されたシスターは韓国の青年キリスト者の生き生きとした生き方に触発されて、現在は同志社大学大学院で韓国近代史を研究中です。



フランシスコ教皇は、就任以来、私たちに「社会のただ中に出て行き福音の宣教を」と呼び掛けておられます。私たちは隣国韓国の教会の存在感ある実践から多くを学ぶことができるのではないかと、この学習会が企画されたようです。かつての青年たちを中心に30名余(うち男性6名)が熱心に聞き入りました。62-65年の第二バチカン公会議をうけて、教会は大きく変わりました。「現代世界憲章」、エキュメニカルな運動…。そんな中、韓国では朴正熙軍事政権下での社会変化(経済発展と農村荒廃、格差拡大と労働条件悪化等)の一方、各種弾圧(そのうちの 하나가池学淳司教の拘束)が行われた。池司教の“良心宣言”や、合同祈祷会・正義具現司祭団・ろうそくデモなどの韓国の教会の動きを支え、世界へ伝える役割を日韓の「教会」(白柳枢機卿や正平協宋榮淳など多数の方々の繋り)が市民団体と協力して果たしました。

1980年光州事件でも相馬司教の世界への働きかけを始めとする連帯の絆が大きな力を発揮しました。しかし一方では、韓国・朝鮮へは秀吉の「朝鮮征伐」、1910年から36年間の「併合」の名での植民地支配・弾圧・強制連行…戦後も指紋押捺の強要などの抑圧の歴史を忘れてはならないし、また日本国内での今もなお続く在日差別の現実もあります。また『日韓合意』があるといってもまだ慰安婦問題は解決したとは言えません。しかし日本のカトリック教会はこの間の韓国カトリック教会の動きに強い影響を受けながら動き始めてきました。1995年『戦後50年』の司教団メッセージや日韓司教会議の「教科書作り」、また、近年は各司教区単位での日韓交流など連帯の道を歩んできています。

韓国のカトリックは人口の 10% プロテスタントは 20%でキリスト者計 400 万人（日本はカトリック 44 万人で人口比 0.34% 16 年末発表）。キリスト者のマンパワーには差があるけれど、社会への積極的な関わりの必要性は同じです。いまさらながら、『正義と平和協議会』との共働によって社会の中で阻害されている人たちとの連帯をめざし進んでいかないと…と考えさせられて学習会を終えました。（飯塚）

《 各部だより 》 各専門部会の活動をお知らせいたします。

📖 小教区評議会

7月 9日（日）12:00 評議会

📖 典礼部

7月 2日（日）11:15～15:00 侍者練成会

7月 15日（土）10:00 典礼部会

8月 27日（日）12:00 朗読奉仕者勉強会

📖 地区会

7月 23日（日） 12:00 地区役員会

📖 中高生会

8月 23日（水）夏のキャンプ ～25日（金）

📖 教会学校

7月 15日（土） 終業式&キャンプ準備会

8月 9日（水） キャンプ ～12日（土）

《 お知らせ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです。

◆ 社会活動部より ◆

7月 5日（水）10時 手芸の集い（第1、第2会議室） どなたでも参加ご自由です。

7月 8日（土）10時 炊き出し（イグナチオホール 台所）

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話相手や配食だけでもOKです。

7月 28日（金）9時半 ともしび会 施設の子どもたちへのケーキ作り（イグナチオホール台所）

☆ ふれあい広場は 7月はお休みです。

◆ 社会活動部からのお願い ◆

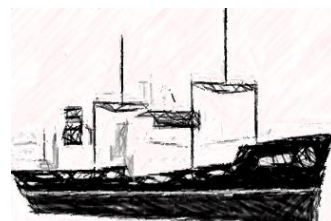
船員司牧にご協力を！

船員たちのために以下の品のご寄付をお願い致します。

- ご家庭に眠っている毛糸
- 未使用の歯ブラシ、くし、ひげ剃り、

（例えばホテル、旅館からいただいたもの）

7月8日（土）～23（日）まで ご聖堂入り口の箱にお入れ下さい。



船員司牧とは、船員たちへの司牧活動を意味します。「船員」というと、陸で生活している私たちには、遠い存在のように感じられます。しかし、私たちの衣食住から日用品にいたる生活物資の海外からの輸入量は11億トン/年にのぼります。そして、そのうち99%が、「みなと」を経由しています。つまり、船員たちの働きがなければ、私たちの生活、生命が成り立たないほど、私たちの生活は「船員」と深い関係を持っています。「船員」たちは、経済競争の中での安価な賃金、限られた場所での過酷な労働、家族と離れた孤独な船上生活を強いられています。彼らの楽しみは陸と海の接点「みなと」でのわずかな憩いのひと時です。船員司牧は、そんな船員たちを訪問し、「みなと」での憩いのひと時を応援するカトリック教会の組織です。「のどが渇いているときに一杯の水を差し出す」ことが、船員司牧の基本精神です。

(日本における「船員司牧」の手引きより一部抜粋)



◆図書室からのお知らせ◆

図書室に入った本(5月)

☆ 悠遠の人 高山右近 — 塩見 弘子 ドン・ボスコ社

血で血を洗うような戦国時代 生涯カトリックの信仰を貫き 晩年は国外追放された一人のキリシタン大名、高山右近——。信長は右近に一目おき、秀吉は惜しみなく称賛し、家康は怖れた。やがて右近はこの三人から、人生の大きな選択を迫られることになる。信仰をとるか、大名の地位を守るか——。何かを選びとるとは、同時に捨てていくこと。右近が、捨てて、捨てて、捨てきった先に 見たものとは何だったのだろうか？ (はじめに から)

殉教とは死を望むことでも 死に急ぐことでもなく 悠遠のまなざしのなかに帰っていくこと—ただ それだけなのです

☆ キリスト教は役に立つか — イエスの教えは「孤独」に効く — 来住英俊 新潮選書

信仰とは無縁だった灘高・東大卒の企業人は、いかにして30歳でカトリック司祭への転身を決意したのか。なぜ漠然と抱えてきた「孤独感」を解消できたのか。旧約聖書から新約聖書、遠藤周作からドストエフスキー、寅さんからエヴァンゲリオンまで、幅広くエピソードを引きながら、ノン・クリスチャンの日本人にも役立つ「救いの構造」をわかりやすく解説する。

☆ お祈りという名の贈り物 — はれるやはれるや感謝を込めて —

さく・え hanbunko

いのちのことば社

このえほんは、あなたのために生まれました。どうかこの1ページ1ページで、神さまに心を向けてその愛に耳をかたむけてください。きっとあなたの全てを抱きしめている神さまの愛が聞こえてきます。



みんなの広場

七月三十一日

7月と言えば31日、この小教区が委ねられているイエズス会の創始者ロヨラの聖イグナチオの記念日。

イグナチオと言えば、西洋史の教科書にわずかな記事はありますが、殆ど知られていないのでは。イエズス会が司牧に当たる教会の信徒も？

一城の主ではあったが戦傷で城へ言わば逃げ帰った。居城に帰ったが治療中の無聊を慰めるものが何もなかった、ようやく手にしたのが「聖人伝」であったというから、文化には縁のなかった人だったか。回心後も神学の勉強に四苦八苦だったといわれています。聖イグナチオというと、オツカナイ聖人のようですが、上流の女性たちにもてて支援者も少なくなかったというから、敬遠しなくてもよさそうです。

本物の「霊操」は無理だとしても、傍らに置いてチョイ読みをするのも悪くはなでしょう。「霊操」の終わりに霊操中のいろいろな注意が書かれています。霊操中でなくても、我々の日常にも役に立ちます。本論とは別に読んでみるのもよいか。岩波文庫に門脇佳吉師訳注の「霊操」があります。

ところで、最近「聖人伝」はあまり読まれなくなったようですが、女子パウロ会のサイトに「聖人伝」があります。僕は無断借用してファイルに写し、「毎日のミサ」「カトリック新聞」などの聖人伝を加えて、私家版「聖人伝」を作っています。窃盗前科何十犯かになるからここだけの話。「聖人」と言っても別世界の人ではありません。我々も全員「聖人」にならないと永遠にとんでもないことになる、心しておかないと。
(ヨハネ 三好榮之助)

オマリー神父様、ありがとうございました

オマリー神父様が、ザビエルハウスより東京のロヨラハウスに移られたと伺いました。

神父様とは多くの思い出がありますが、特にご一緒した巡礼旅行には忘れがたいものがあります。私が神父様とご一緒する巡礼旅行には、プロテスタントの友人が多く参加していました。訪問先でのプロテスタント式の礼拝に、神父様は快くご参加くださいましたし、またカトリック式のミサを捧げて下さった時には、プロテスタントの友人たちは神父様から祝福を受けることを本当に喜んでいました。そのことが私にはとても嬉しく、大きな喜びでした。私たちはイエスの弟子として生きる神父様にあこがれていましたし、大好きでした。

おおらかに、すべてを受け入れて下さったオマリー神父様、長きにわたりありがとうございました。東京に移られても心安らかに過ごされますようお祈りいたします。
(内山 あき)

<p>教会報8月号の発行は7月30日(日)です。 原稿は7月16日(日)までに教会受付へご提出ください。 FAX及びメールでも受付いたします。(広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会	
	657-0061	神戸市灘区赤松町3-1-21
	電 話	078-851-2846
	F A X	078-851-9023
	発行責任者	アルフレド・セゴビア
編 集	広 報 部	